

令和元年度 鳴門教育大学

グローバル教員養成プログラム 実施報告書

日本語教育実習

<コンケン大学 (タイ王国) >

出張者所属・氏名：

(教員 2名) : グローバル教育コース 日本語教育・日本文化分野 田中 大輝

グローバル教育コース 日本語教育・日本文化分野 廣田 知子

(職員 1名) : 学生課国際交流係 大西 紀子

(院生 2名) : 言語系コース(国語) 鈴木 優香 (L2)

言語系コース(英語) 楊 瑞 (M2)

用務地 : タイ王国

用務先 : コンケン大学

出張期間 : 令和元年 11 月 2 日 (土) ~11 月 13 日 (水)

1. はじめに

本研修では、主に以下の(1)-(3)の3つの活動を通して、参加者にグローバルな視点を持った教員としての資質・能力を身に付けさせることを目的とした。

(1) 【研修活動[1]】

コンケン大学教育学部附属中等学校で行われている日本語の授業を見学することで、タイの中等教育における日本語教育のあり方を学ぶとともに、より良い日本語教育の実施のために、当該授業について、当該校の関係者と意見交換を行う。

(2) 【研修活動[2]】

コンケン大学教育学部附属中等学校で日本語の授業を行うことで、タイの中等教育機関で学ぶ学習者と直に接するとともに、より良い日本語指導の実施のために、当該授業について、当該校の関係者と意見交換を行う。

(3) 【研修活動[3]】

コンケン大学教育学部附属初等学校で行われている授業を見学することで、タイの初等教育のあり方を学ぶ。また、コンケン大学教育学部日本語教育課程で行われている授業を見学することで、タイの高等教育機関における日本語教育のあり方を学ぶ。さらに、コンケン大学の学生、附属初等・中等学校の児童・生徒との交流を通して、コンケン大学やタイの文化についての理解を深める。

2. 研修計画・内容

2-1 本研修の参加者

本研修の参加者は(4)のとおりである。参加する学生は(5)の方針で選抜した。

(4) 本研修の参加者

(教員 2名)	:	グローバル教育コース 日本語教育・日本文化分野	田中 大輝
		グローバル教育コース 日本語教育・日本文化分野	廣田 知子
(職員 1名)	:	学生課国際交流係	大西 紀子
(院生 2名)	:	言語系コース(国語)	鈴木 優香 (L2)
		言語系コース(英語)	楊 瑞 (M2)

(5) 本研修の参加者(学生)の選抜方針

- 大学院開講科目の「日本語教育実習」の一環として派遣されるため、日本語教育に関する豊富な知識・経験を有していること。
- 今回の海外研修の目的を十分に理解し、グローバルな視点を持った教員になるために、自らの資質・能力を高めたいという目的意識が明確であること。

2-2 本研修の日程

(6) 本研修の日程（田中・大西）

日順	月日(曜日)	業務地	業務内容
1	11/2(土)	徳島→羽田	移動 JL464 (徳島発 20:35→羽田着 21:45)
2	11/3(日)	羽田→バンコク バンコク→コンケン	移動 JL33 (羽田発 00:05→バンコク(スワンナプーム)着 05:05) 移動 TG2040 (バンコク(スワンナプーム)発 07:00→コンケン着 08:00)
3	11/4(月)	コンケン大学 附属中等学校 モーデインテン校	08:00-08:30 朝礼への参加, 学校長への挨拶など 11:10-12:00 「Basic Japanese 4」 (中学2年生対象) 授業見学 (①) 13:00-13:50 「Basic Japanese 4」 (中学2年生対象) 授業見学 (②) 13:50-14:40 「Elective Subject 4」 (中学2年生対象) 授業見学 (③) 14:50-15:40 「Elective Subject 4」 (中学2年生対象) 授業見学 (④) 15:40-16:30 「Basic Japanese 2」 (中学1年生対象) 授業見学 (⑤)
4	11/5(火)	コンケン大学 附属中等学校 モーデインテン校 コンケン大学 教育学部	10:20-11:10 「Elective Subject 4」 (高校2年生対象) 授業見学 (⑥) 11:10-12:00 「Elective Subject 4」 (高校2年生対象) 授業見学 (⑦) 12:40-14:40 実習授業についての打ち合わせ 15:00-18:30 日本語教育課程の先生方と打ち合わせ
5	11/6(水)	コンケン大学 附属中等学校 モーデインテン校 コンケン→バンコク バンコク→羽田	09:20-10:10 「Basic Japanese 2」 (中学1年生対象) 授業見学 (⑧) 10:20-12:00 「Elective Subject 2」 (中学1年生対象) における本学学生の実習授業を見学 (⑨) 13:00-13:50 「Basic Japanese 6」 (中学3年生対象) 授業見学 (⑩) 13:50-14:40 実習反省会 (⑪) 移動 TG2049 (コンケン発 17:30→バンコク(スワンナプーム)着 18:30) 移動 JL34 (バンコク(スワンナプーム)発 22:05→羽田着 05:40)
6	11/7(木)	羽田→徳島	移動 JL455 (羽田発 09:30→徳島着 10:55)

(7) 本研修の日程（廣田）

日順	月日(曜日)	業務地	業務内容
4	11/5(火)	徳島→関空 関空→羽田	移動 高速バス 移動 TG6032 (関空発 21:05→羽田着 22:15)
5	11/6(水)	羽田→バンコク バンコク→コンケン コンケン大学 附属中等学校 モーデインテン校	移動 TG661 (羽田発 00:20→バンコク(スワンナプーム)着 05:25) 移動 TG2040 (バンコク(スワンナプーム)発 07:00→コンケン着 08:00) 10:20-12:00 「Elective Subject 2」 (中学1年生対象) における本学学生の実習授業を見学 (⑨) 13:00-13:50 「Basic Japanese 6」 (中学3年生対象) 授業見学 (⑩) 13:50-14:40 実習反省会 (⑪)

6	11/7(木)	コンケン大学 附属中等学校 モーティンデン校	10:20-11:10 「Basic Japanese 2」 (中学1年生対象) 授業見学 (12) 11:10-12:00 「Traveling in Japan」 (高校3年生対象) 授業見学 (13) 13:50-15:40 「Elective Subject 2」 (高校1年生対象) における本学学生の実習授業を見学 (14) 15:40-16:30 「Basic Japanese 4」 (中学2年生対象) 授業見学 (15) 16:35-16:55 実習反省会 (16)
7	11/8(金)	コンケン大学 附属初等学校 スクーサート校 コンケン大学 教育学部	08:00-08:30 先生方との顔合わせ 09:00-10:30 校内見学 (17) 10:40-11:30 授業参加 (18) 13:30-14:20 日本語教育課程の授業見学 (19)
8	11/9(土)	コンケン大学	16:00-20:00 ローイクラトン祭りに参加 (21) (コンケン大学教育学部日本語教育課程の学生と交流)
9	11/10(日)	コンケン	学生の実習授業準備への助言等
10	11/11(月)	コンケン大学 附属中等学校 モーティンデン校	09:00-10:10 実習授業準備への助言 10:10-11:00 学生の実習授業リハーサルを見学 11:10-12:00 「Basic Japanese 4」 (中学2年生対象) 授業見学 (22) 13:00-13:50 「Basic Japanese 4」 (中学2年生対象) 授業見学 (23) 13:50-15:40 「Elective Subject 4」 (中学2年生対象) における本学学生の実習授業を見学 (24) 16:35-16:55 実習反省会 (25)
11	11/12(火)	コンケン大学 附属中等学校 モーティンデン校 コンケン→バンコク バンコク→関空	08:30-10:10 「Basic Japanese 2」 (中学1年生対象) 授業見学 (26) 10:20-12:00 「Elective Subject 4」 (高校2年生対象) における本学学生の実習授業を見学 (27) 13:00-14:30 実習反省会 (28) 移動 TG2047 (コンケン発 21:25→バンコク(スワンナプーム)着 22:25) 移動 TG622 (バンコク(スワンナプーム)発 23:59→関空着 07:20)
12	11/13(水)	関空→徳島	移動 高速バス

※ 廣田は上記の日程を予定していたが、11/12(火)のTG622便が機体メンテナンスにより急遽欠航となったため、11/12(火)のバンコク到着後の旅程は以下のように変更となった。

11	11/12(火)	バンコク	ホテル泊
12	11/13(水)	バンコク→関空 関空→徳島	移動 TG622D (バンコク(スワンナプーム)発 08:00→関空着 15:20) 移動 高速バス

(8) 本研修の日程(鈴木・楊)

日順	月日(曜日)	業務地	業務内容
1	11/2(土)	徳島→関空 関空→バンコク	移動 高速バス 移動 TG673 (関空発 17:25→バンコク(スリナブーム)着 22:00)
2	11/3(日)	バンコク→コンケン	移動 TG2040 (バンコク(スリナブーム)発 07:00→コンケン着 08:00)
3	11/4(月)	コンケン大学 附属中等学校 モーティンデン校	08:00-08:30 朝礼への参加, 学校長への挨拶など 08:30-11:00 授業準備 11:10-12:00 「Basic Japanese 4」 (中学2年生対象) 授業見学 (①) 13:00-13:50 「Basic Japanese 4」 (中学2年生対象) 授業見学 (②) 13:50-14:40 「Elective Subject 4」 (中学2年生対象) 授業見学 (③) 14:50-15:40 「Elective Subject 4」 (中学2年生対象) 授業見学 (④) 15:40-16:30 「Basic Japanese 2」 (中学1年生対象) 授業見学 (⑤)
4	11/5(火)	コンケン大学 附属中等学校 モーティンデン校	08:00-08:30 授業準備 08:30-10:10 実習授業についての打ち合わせ 10:20-11:10 「Elective Subject 4」 (高校2年生対象) 授業見学 (⑥) 11:10-12:00 「Elective Subject 4」 (高校2年生対象) 授業見学 (⑦) 12:40-14:40 実習授業についての打ち合わせ
5	11/6(水)	コンケン大学 附属中等学校 モーティンデン校	08:00-09:10 授業準備 09:20-10:10 「Basic Japanese 2」 (中学1年生対象) 授業見学 (⑧) 10:20-12:00 「Elective Subject 2」 (中学1年生対象) において実習授業を実施 (⑨) 13:00-13:50 「Basic Japanese 6」 (中学3年生対象) 授業見学 (⑩) 13:50-14:40 実習反省会 (⑪)
6	11/7(木)	コンケン大学 附属中等学校 モーティンデン校	08:30-10:00 実習授業についての打ち合わせ 10:20-11:10 「Basic Japanese 2」 (中学1年生対象) 授業見学 (⑫) 11:10-12:00 「Traveling in Japan」 (高校3年生対象) 授業見学 (⑬) 13:50-15:40 「Elective Subject 2」 (高校1年生対象) において実習授業を実施 (⑭) 15:40-16:30 「Basic Japanese 4」 (中学2年生対象) 授業見学 (⑮) 16:35-16:55 実習反省会 (⑯)
7	11/8(金)	コンケン大学 附属初等学校 スクーサート校 コンケン大学 教育学部 コンケン大学 キャンパス内	08:00-08:30 先生方との顔合わせ 09:00-10:30 校内見学 (⑰) 10:40-11:30 授業参加 (⑱) 13:30-14:20 日本語教育課程の授業見学 (⑲) 14:30-16:00 コンケン大学キャンパスツアー (⑳) (コンケン大学教育学部日本語教育課程の学生と交流)

8	11/9(土)	コンケン大学	16:00-20:00 ローイクラトン祭りに参加 (21) (コンケン大学教育学部日本語教育課程の学生と交流)
9	11/10(日)	コンケン	実習授業の準備等
10	11/11(月)	コンケン大学 附属中等学校 モーデインテン校	09:00-10:10 実習授業の準備 10:10-11:00 実習授業のリハーサル 11:10-12:00 「Basic Japanese 4」 (中学2年生対象) 授業見学 (22) 13:00-13:50 「Basic Japanese 4」 (中学2年生対象) 授業見学 (23) 13:50-15:40 「Elective Subject 4」 (中学2年生対象) において実習授業を実施 (24) 16:35-16:55 実習反省会 (25)
11	11/12(火)	コンケン大学 附属中等学校 モーデインテン校 コンケン→バンコク バンコク→関空	08:30-10:10 「Basic Japanese 2」 (中学1年生対象) 授業見学 (26) 10:20-12:00 「Elective Subject 4」 (高校2年生対象) において実習授業を実施 (27) 13:00-14:30 実習反省会 (28) 移動 TG2047 (コンケン発 21:25→バンコク(スワンナプーム)着 22:25) 移動 TG622 (バンコク(スワンナプーム)発 23:59→関空着 07:20)
12	11/13(水)	関空→徳島	移動 高速バス

※ 鈴木・楊は上記の日程を予定していたが、11/12(火)のTG622便が機体メンテナンスにより急遽欠航となったため、11/12(火)のバンコク到着後の旅程は以下のように変更となった。

11	11/12(火)	バンコク	ホテル泊
12	11/13(水)	バンコク→関空 関空→徳島	移動 TG622D (バンコク(スワンナプーム)発 08:00→関空着 15:20) 移動 高速バス

2-3 本研修の内容とその成果

2-3-1 【研修活動[1]】について

(1) 【研修活動[1]】 (再掲)

コンケン大学教育学部附属中等学校で行われている日本語の授業を見学することで、タイの中等教育における日本語教育のあり方を学ぶとともに、より良い日本語教育の実施のために、当該授業について、当該校の関係者と意見交換を行う。

(9) 授業者情報

- a. ベスト先生 (コンケン大学附属中等学校モーディンデン校)
- b. ポリさん (コンケン大学教育学部日本語教育課程 5 年生 : 日本語教育実習生)
- c. パークワンさん (コンケン大学教育学部日本語教育課程 5 年生 : 日本語教育実習生)

(10) 対象となった活動

	日付	授業名	対象学年	授業者
①	11/4(月)	Basic Japanese 4	中学 2 年生	ポリさん
②				
③	11/4(月)	Elective Subject 4	中学 2 年生	ポリさん
④				
⑤	11/4(月)	Basic Japanese 2	中学 1 年生	ポリさん パークワンさん
⑥	11/5(火)	Elective Subject 4	高校 2 年生	パークワンさん
⑦				
⑧	11/6(水)	Basic Japanese 2	中学 1 年生	パークワンさん
⑩	11/6(水)	Basic Japanese 6	中学 3 年生	ベスト先生
⑫	11/7(木)	Basic Japanese 2	中学 1 年生	パークワンさん
⑬	11/7(木)	Traveling in Japan	高校 3 年生	ベスト先生
⑮	11/7(木)	Basic Japanese 4	中学 2 年生	ポリさん
⑳	11/11(月)	Basic Japanese 4	中学 2 年生	ポリさん
㉓				
㉖	11/11(月)	Basic Japanese 2	中学 1 年生	ポリさん パークワンさん

授業では、ビンゴゲームやツイスター、また伝言ゲームなど、生徒を楽しませながら、日本語に触れさせ、語彙を少しずつ増やしていくような活動が随所に見られた。グループに分けて競わせることで、どの生徒も積極的に活動に参加し、チームの中の一員として自分の居場所を見つけている様子であった。

インターアクションの進め方は、全般的に **Call and Response** の手法が特徴的であった。教師は、新出語彙や既習語彙を提出する際に、よく通る大きな発声で生徒にリピートを促す。生徒は全員が素早く一斉に、元気よく反応して、教師が投げかけた単語を繰り返し発する。これを少なくとも3回は繰り返していた。それが実にリズムカルに教室に響き渡る。教師側の説明を聞くだけの受け身的な授業は見られず、常に生徒を飽きさせず、インプットとアウトプットのバランスの取れた語学学習が成立していた。既習語彙を復習する際にも、教師側が与える答えは最終的に用意されているが、カラフルな絵を使って、なるべく生徒からの答えを引き出すように導いていた。

中等教育で、しかも学習機会が週に数回と限られていることもあり、授業では、日本語の発音を聞いて耳に慣れさせることが優先されており、文字教育は必ずしも徹底して行われているわけではなかった。しかし、その分、たとえばポリさんの授業では、教師が発する「845」という音を聞いて「happyaku」「yon」「juu」「go」という4枚のローマ字のカードを選んで順番に素早く並べるといような訓練が行われていた。何度も繰り返して行われるその作業で、聞き取りの力はかなりつくのではないかと推測される。また、見学させていただいた授業の聞き取りテストにおいて、本学の学生が数字を読む役割を頼まれたことがあった。アクセントに注意しながら、正確に適度な間をおいて発音する機会をいただいたことは、本学の学生にとって良い経験になったことと思う。また、パークワンさんの授業では、「ことばを勉強しましょう。」という元気な掛け声のもと、「murasaki」「chairo」といった色の名前をローマ字を使って導入していた。それに加えて、生徒の記憶に残りやすい鮮やかな色を配したPPTの画面で、生徒の関心を引きつけ、何度も **Call and Response** を用いて発音練習を行っていた。クラス全体でPPTに向き合うだけでなく、個々の生徒の手元には語彙確認のためのプリントがあり、色鉛筆が用意されていた。学習した色を実際に図の中に塗っていく作業を通して記憶の定着を図るというわけである。きちんとステップを踏んで計算された語彙学習が行われている様子がうかがわれた。

そのような先生方の技術・工夫の中で、特に印象的だったのは、ベスト先生の抑制のきいたクラスコントロールである。中学生、高校生という、ともすれば、がやがや騒がしくなってしまうがちな年齢の生徒たちに対し、ベスト先生は、大声を使うことなく静かにさせるテクニックをわきまえていた。たとえば、グループごとに分かれて活動を行ったときには、静かになったグループから退室してもいいという暗黙のルールができているなど、クラスの中で、自然に静謐な雰囲気醸し出されていくさまは見事であった。

各先生のすべての授業において、市販の教科書は参考程度という位置づけであり、主な教材としては、教師が考え抜いたであろうPPTや独自のオリジナルプリントが使用されていた。生徒の日本語学習へのモチベーションを失わせないように、時間をかけて授業内容を練り上げ、練習する機会を絶えず与えていた先生方の努力に感銘を受けた。

2-3-2 【研修活動[2]】について

(2) 【研修活動[2]】 (再掲)

コンケン大学教育学部附属中等学校で日本語の授業を行うことで、タイの中等教育機関で学ぶ学習者と直に接するとともに、より良い日本語指導の実施のために、当該授業について、当該校の関係者と意見交換を行う。

(11) 対象となった授業

	日付	授業名	対象学年	授業者
⑨	11/6(水)	Elective Subject 2	中学1年生	鈴木優香 (鳴門教育大学大学院生) 楊 瑞 (鳴門教育大学大学院生)
⑭	11/7(木)	Elective Subject 2	高校1年生	鈴木優香 (鳴門教育大学大学院生) 楊 瑞 (鳴門教育大学大学院生)
⑳	11/11(月)	Elective Subject 4	中学2年生	楊 瑞 (鳴門教育大学大学院生)
㉑	11/12(火)	Elective Subject 4	高校2年生	鈴木優香 (鳴門教育大学大学院生)

(12) 実習授業全体の振り返り

	日付	参加者
⑪	11/6(水)	【鳴門教育大学】 田中, 廣田, 大西, 鈴木, 楊 【コンケン大学】 ベスト先生, ポリさん, パークワンさん
⑯	11/7(木)	【鳴門教育大学】 廣田, 鈴木, 楊 【コンケン大学】 ベスト先生, ポリさん, パークワンさん
㉒	11/11(月)	【鳴門教育大学】 廣田, 鈴木, 楊 【コンケン大学】 ベスト先生, ポリさん, パークワンさん
㉓	11/12(火)	【鳴門教育大学】 廣田, 鈴木, 楊 【コンケン大学】 ベスト先生, ポリさん, パークワンさん

実習授業は、(11)に示したように、鈴木、楊の2名で2回行った後、1名だけで行う授業を1回ずつ実施した。それぞれの授業を実施した後、振り返りの会で、タイの先生方から大変貴重なご意見をいただいた。

今回の実習授業は、「神社」というテーマを中心に据えて、生徒の反応を確かめながら、主要教材であるPPTに少しずつ修正を加えていった点に特徴がある。余分な箇所は削ったり、もっと深く教えたいところは足したりして、少しずつ進化させていったので、実習を行った学生もそのことに手ごたえを感じていたはずである。これは、一貫したテーマに沿った実習を行った利点であると思われる。

まず、⑨の実習では、タイの先生方から「お寺」と「神社」の違いがはっきりわからなかったという感想が述べられた。「神社」の特徴としては、「鳥居」があることが挙げられると思うが、それがあまり強調されていなかったのもっとそのことをわかりやすくシンプルに示したほうが良いというアドバイスであった。単に日本のお寺と神社を比較するだけではな

く、身近にあるタイのお寺も取り上げたほうがいいかもしれないという意見もあった。また、参拝前になぜ手を洗うのかや、神社の前になぜ鳥居があるのかといった「なぜ？」といったところに切り込んだ深さもほしいという注文も寄せられた。具体的に参拝して礼や拍手をする場面では、何人かだけでやるのではなく、全員でやったほうがいいという助言をいただいた。さらに、鈴木も楊も1回目ということで緊張していたのか、あまり声が遠くまで通っておらず、段取りが先行していたため、生徒が話を聞いて理解できているかどうかをもう少し確認しながら、教師の立ち位置にも注意しながら進めて行った方がいいということも示唆していただいた。

⑭の実習では、前回よりも教師の話す日本語の量が考慮され、より適切にシンプルに伝えられるようになっていた。神社とコンビニの数の比較や巫女の踊りを取り入れたりし、「神社」が生徒により身近なものとして入っていきやすかったと思われる。また、鈴木・楊のコンビネーションも1回目よりスムーズで、教師の立ち位置もよく考えられていた。お互いにカバーしあうタイミングがわかっている、2名で授業する利点が活かされていた。タイの先生方からも、内容は増えていたが、書く活動を生徒たちが楽しく感じられている様子がかがわれたという感想をいただいた。Call and Responseにも慣れてきて、リピートをしてもらう間の取り方も非常に良かった。生徒数が4名であったので、前回よりも教師側の目配りが格段に届きやすく、ほとんど通訳なしで通せた授業となった。

⑮の実習では、楊一人が授業進行をし、鈴木はアシスタントとして楊の進行を助けた。Call and Responseにもずいぶん慣れてきたが、すべて2回繰り返して終わりというように単調になりがちであった。生徒の反応に対し、もう少し臨機応変に対処してもよかったのではと思われる。生徒をほめることでモチベーションが上がると思うのだが、一人で進めている緊張感のせいか、パソコンを見ている時間が長かったようだ。楊は、今回「色」の語彙の導入に挑戦し、それによって今までのPPTの流れに少し変化が生じた。新しい試みをしたことで、授業全体の導入語彙数が多くなったせいか、後半部分は、生徒のResponseの声に元気がなくなってきた。タイの先生によると、今回対象となった中学2年生は大変シャイな学年で、聞きたいことがあっても聞けないというジレンマがあるということだった。生徒が何でも質問できるクラスの雰囲気を作ることも、教師の大切な役割のひとつであろう。

⑯の実習では、鈴木一人が授業進行をし、楊がアシスタントとして鈴木の進行を助けた。楊とは逆に、いい意味で緊張感が抜けていて、スムーズに進んだが、授業の途中で、携帯電話をいじっている生徒や寝ている生徒が見つかった。振り返りの会で、その時の対策方法についてタイの先生にうかがったところ、高校生の場合は、もう本人の自覚に促すのであえて起こしはしないが、中学生の場合は、教師が起こして授業に参加させるという答えであった。また携帯電話の授業中の使用に関しては、授業の前に注意しておくことが大切だということであった。鈴木は授業は「神社」をテーマに据えた4回目の授業だったので、改良を重ねた努力の成果が出ていたと思われる。しかし、23名を対象とした授業だったので、4名であった⑭の授業に比べると、一人一人に目が行き届かなかったという反省点もあった。クラスサイズが異なる場合、テーマが同じでも一つ一つの活動の時間のかけ方が違ってくるので、それぞれのクラスの特徴に合わせた工夫が必要である。

2-3-3 【研修活動[3]】について

(3) 【研修活動[3]】 (再掲)

コンケン大学教育学部附属初等学校で行われている授業を見学することで、タイの初等教育のあり方を学ぶ。また、コンケン大学教育学部日本語教育課程で行われている授業を見学することで、タイの高等教育機関における日本語教育のあり方を学ぶ。さらに、コンケン大学の学生、附属初等・中等学校の児童・生徒との交流を通して、コンケン大学やタイの文化についての理解を深める。

(13) 対象となった活動

	日付	
⑰	11/8(金)	コンケン大学附属初等学校スクサーサート校の校内を見学
⑱	11/8(金)	コンケン大学附属初等学校スクサーサート校の授業に参加
⑲	11/8(金)	コンケン大学教育学部日本語教育課程の授業を見学
⑳	11/8(金)	コンケン大学キャンパスツアーに参加
㉑	11/9(土)	ローイクラトン祭りに参加

コンケン大学附属初等学校スクサーサート校の校内を案内していただき、その恵まれた学習環境や、そこでのびのびと自由に学習を楽しむ児童の姿を見せていただいた。先生の説明のあとで、児童たちが伝統的な踊りも披露してくれた。ひととおり踊りを見終わってから、私たちも踊りの輪に誘われ、音楽に合わせて一緒に踊った。こういった文化の継承が初等学校のころから意識され、民族楽器などに触れる機会を持っていることは、本当に大切な心を育てる教育が行われていると感じた。中でも特に、ローイクラトン祭りで流す灯籠を作る授業に参加したことは、印象深かった。屋外で5、6名のグループに分かれ、バナナの木の幹や花などの材料を配られ、児童と一緒に思い思いの灯籠作りに取り組んだ。先生や児童たちが日本から来た私たちにも親切に教えてくれ、言葉の垣根を越えた交流ができたように感じた。

コンケン大学教育学部では、日本語教育課程の高橋美紀先生による読解・聴解の授業を見学させていただいた。授業中にiPadを使っている学生もいて、ICT教育が進んでいることをうかがわせた。教科書の文章を一斉に読む活動においては、指示語が何を指しているかを丁寧に確認しながら進み、一つ一つのフレーズの理解度の確認が非常に緻密にされている様子がわかった。また、前後左右の学生とお互いに確認しあうことや、グループで行う活動も多く取り入れていた。後半では、日本人学生が見学していることもあつてか、読解のテーマから話題を取り上げて、「1. 自分はよく失敗をするか」、「2. どんな失敗をしたことがあるか」、「3. 失敗しないためにどういったことに気を付けているか」など、学生が話しやすい質問事項を設けて、発表しあつた。教師は、机間巡視を頻繁に行い、個々のグループからの質問等に答えていた。

ローイクラトン祭りでは、暗くなる前に、大学構内で様々な団体によるパレードが行われ、祭りの気分を盛り上げてくれた。そのパレードの頭上には、赤、青、黄、緑など灯のともった風船が吊るされ、暗くなった夜空に映えていた。この祭りの案内役を務めてくれたのが、コ

ンケン大学教育学部日本語教育課程 4 年生の 5 名の女子学生たちである。クラトンというのは、灯籠という意味で、ローイというのは、川に流すことだそうだ。毎年旧暦 12 月の満月の夜に川の女神に感謝の気持ちを捧げるため、灯籠の上にもろうそくと線香を立て、川に流す。私たちも、前日に初等学校の授業に参加して作成した灯籠を持参し、最後に川に流した。そのあとで、お祭りには欠かせないタイの屋台料理をタイの学生に解説してもらいつつ、ともに味わった。伝統行事を存分に味わえた一夜となった。

3. 最後に

まず、今回、私たちに貴重な研修の機会を提供してくださった、コンケン大学教育学部附属中等学校の校長先生はじめ諸先生方に心からお礼申し上げたい。実習授業の記録のために必要なビデオの三脚を手早くご用意くださったり、給食や飲み物、そしてホテルと学校の間の送迎まで細やかにご配慮くださったりと、本当に心温まる思いであった。授業準備のために提供してくださったスペースは、実に居心地のいい場所となった。そのおかげで、少しの緊張感を保った中にもリラックスして研修活動の日々を送ることができ、実り多い海外研修活動となったと思われる。特に、お忙しい日々の授業の合間を縫って、毎回、実習授業の振り返りの会に参加してくださったベスト先生、ポリさん、パークワンさんの 3 名の先生方には、改めて感謝の意を表したい。先生方のご経験から述べていただいたご助言やご感想は、深く私たちの胸に刻まれ、次の新たな実践の場へと活かすことができるはずである。

今回の研修では、附属中等学校で日本語教育の現場に携わらせていただいただけでなく、附属初等学校、それに大学の教育学部日本語教育課程の授業など、すべての校種の授業を見せていただき、それぞれの学習者と交流する機会をいただいた。教師を目指す学生たちにとって、海外での様々な教育の現場に触れることができたことは、めったに得られない貴重な経験になったことであろう。

なお、廣田・鈴木・楊の 3 名は、帰国の前日に、帰国便が予定通り飛ばない旨の知らせを受けるといふハプニングに見舞われた。空港で一夜を明かすこともやむなしとあきらめかけていたところに、コンケン大学教育学部日本語教育課程で授業を見学させていただいた高橋先生から、「空港で一夜を明かすのは大変なので、空港近くのこのホテルに泊まって、少しでも体を休めた方がいいですよ。」とアドバイスをいただいた。そのアドバイスどおり、急遽、ご紹介いただいたホテルに予約を取った。温かいシャワーを浴び、きちんとしたベッドで横になって休むことができた私たちは、おかげで翌朝、元気に帰国の途に就くことができた。高橋先生には、タイに渡航する前から、私たちの質問に丁寧に答えてくださったり、現地情報を提供して下さったりして、大変お世話になった。また、実習中も絶えず、私たちの研修活動がスムーズに進むように尽力くださった。改めてお礼を申し上げたい。

かくして、最初から最後までいろいろな方々にお世話になりっぱなしの私たちであったが、それらすべてのことに感謝しつつ、この報告書を終えることとする。

令和元年度 鳴門教育大学

グローバル教員養成プログラム 参加報告書

日本語教育実習<タイ王国・コンケン大学>

鳴門教育大学大学院 学校教育研究科

教科・領域教育専攻 言語系コース(国語)

学籍番号 18811081

氏 名 鈴木 優香

鳴門教育大学大学院 学校教育研究科

教科・領域教育専攻 言語系コース(英語)

学籍番号 18813125

氏 名 楊 瑞

I. 実習の基本情報

■ 実習期間(前後の移動日を含む)

2019年11月3日(土)～13日(水)

■ 実習校

11月4日(月)～12日(火) 授業見学・授業実践:コンケン大学附属中等学校モーディンデン校

11月8日(金)午前 校内見学・授業参加:コンケン大学附属初等学校スクサーサート校

11月8日(金)午後 授業見学・キャンパス見学:コンケン大学教育学部

■ コンケン大学附属中等学校モーディンデン校における実習のスケジュール

時限	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
日付	8:30-9:20	9:20-10:10	10:20-11:10	11:10-12:00	13:00-13:50	13:50-14:40	14:50-15:40	15:40-16:30
2019.11.4(月)				中2 24人 見学	中2 24人 見学	中2 13人 見学		中1 44人 見学
2019.11.5(火)			高2 23人 見学					
2019.11.6(水)			中1 15人 実習		中3 46人 見学			
2019.11.7(木)			中1 26人 見学	高3 15人 見学		高1 4人 実習		中2 44人 見学
2019.11.11(月)				中2 24人 見学	中2 24人 見学	中2 13人 実習		
2019.11.12(火)			高2 23人 実習					

II. 事前準備について

■ 授業準備のためにはじめに行ったこと

○ 実習先との打ち合わせ

本実習に際して、コンケン大学教育学部日本語教育課程の高橋美紀先生が実習先とつないでくださった。授業実践を行うコンケン大学附属中等学校モーディンデン校では、日本語教員であるベスト先生、コンケン大学教育学部日本語教育課程5年生のポリさん、パークワンさんが受け入れてくださった。ポリさんとパークワンさんは教育実習生としていらっしゃり、今回の実習に関してほとんどのお世話をしてくださった。

実習が決定した当初の実習先はコンケン大学附属初等学校の予定であったが、10月16日にコンケン大学附属中等学校モーディンデン校に変更になった。今年度から学年暦が変更されたということで、実習の詳細が決まったのは10月だった。そのため、打ち合わせは10月に入ってから

行い、実習校で後期の授業が始まる10月28日に時間割をいただいた。

タイに出発する前の打ち合わせは、特に授業実践に関して、高橋先生、ポリさん、パークワンさんと、SNSを通じて行った。実習前に教えていただいた情報は、以下のとおりである。

- ・ 日本語クラスの時間割(実習期間中に開講されるクラスを、日ごとに記してくださったもの)
必修クラス・選択クラス、学年、人数など
- ・ 日本語クラスで使用している教科書と既習課
教科書：『こはるといっしょに にほんごわあ〜い』国際交流基金
既習課：第1, 3, 7, 8, 14, 15 課
- ・ 生徒の日本語レベル
ローマ字しか読めない。日本語では授業が受けられない。
- ・ 私たちの授業中、生徒に対してポリさんとパークワンさんがタイ語に通訳してくださる。
- ・ 使用教室の様子(写真を送ってくださった。)
人数に対して教室がとても広い。PPTを映す機材が使用できる。

○ 授業実践の準備

上記の通り、渡航1週間前まで授業を実践するクラスの情報になかったため、これまでの報告書にある状況を想定して準備をしていた。平成27年度と平成28年度のコンケン大学での日本語教育実習の報告書から、今回の実習では日本の文化紹介を中心に授業を展開しようと考えた。高橋先生にご連絡した際、使用教科書を教えていただき、また、実習先からは「折り紙」「茶道」「神社」に関する授業の希望があると教えていただいた。渡航前には、それらのキーワードのうち「折り紙」と「神社」を扱った授業内容を一つ完成させておくことにした。授業の構想は以下である。

「神社」と「折り紙」を扱った授業の構想

【神社の紹介】

- ・ 日本のアニメーション映画「君の名は」・「千と千尋の神隠し」の紹介から、日本の神様や神社をイメージする。
- ・ 神社の行事として、正月、七五三、お祭りについて知る。
- ・ 神社の参拝の方法として「鳥居から境内へ入る」「手水屋で手を洗う」「賽銭をして二礼二拍手をする」「おみくじを引く」ことを、疑似体験をして知る。

【折り紙でお守りを作る】

- ・ 折り紙でお守りを作る。(右写真参照)



また、現地で打ち合わせをするまで授業実践の回数やクラスが不確定だったため、現地に行ってから柔軟に変更できるよう、日本文化に関して紹介できるものを多めに持って行くことにした。現地には、「茶道」の紹介のために「お茶碗、茶筌、茶杓」を、「書道」の紹介のために「半紙、筆」を持

って行った。タイでも日本のものが売られていることを、本学の田中大輝先生からお聞きしていたので、最低限の物だけを用意した。しかし現地での打ち合わせで、全ての授業で「神社」と「折り紙」に関して授業をすることに決まったため、これらは使用しなかった。

■ 学内における特別授業について

実習生は 2 人とも、日本語の授業をするのはほとんど初めてであった。先生方のご配慮により、本学の留学生および日本語教育を学ぶ大学院生(日本人学生、正規留学生含む)対象の「日本事情・日本文化」の授業にて、特別授業として授業を実践させていただいた。

特別授業は、タイでの授業実践を想定して行った。対象や時間など不確定なことが多かったため、報告書と事前にいただいていた情報を参考にして、上記の授業の構想を実践してみることにした。以下の「授業実践にあたり工夫した点」には、それらを記す。

また、特別授業終了後、「日本事情・日本文化」授業内において受講生とともに授業内容を検討し、その後同日中に、田中大輝先生・廣田知子先生・大学院生 1 人・実習生 2 人で再度検討した。以下の「良かった点」と「反省点」には、それらを総合的に記す。

実施日:10月31日(木) 13:00~14:30(内50分)

対象:「日本事情・日本文化」受講生 16名(タイ 4人、台湾 1人、中国 9人、日本 2人)

授業者:鈴木 優香・楊 瑞

○ 授業実践にあたり工夫した点

- ・ 先述の現地の生徒の情報から、生徒の日本語レベルはほとんど 0 に近い初級で、生徒の母語による通訳があることを前提に授業を行った。(一方、この特別授業を受講した外国人学生 14 人の日本語レベルは、N3程度が 5 人、N1程度が 9 人であった。)PPT 資料は平仮名とローマ字で表記すること、授業者はシンプルな初級文型で発話すること、ジェスチャーや動作を多用して授業を行うこと、などの工夫をした。
- ・ 手水屋で手を洗う際に使用するひしゃく(100 円ショップで購入)や、おみくじの番号を引く際に使用する道具(ペットボトル、画用紙、割りばし等で自作)などのレアリアを用いて授業を行った。

○ 良かった点

- ・ 授業の内容として、神社の紹介から折り紙でお守りを作る流れがおもしろい。
- ・ 遊びながら学べるので、学習者も興味が持てる。
- ・ 授業者には、神社を疑似的に参拝することに対して宗教の違いによる嫌悪感があるのでは、という心配があった。授業後の検討の際、その点について、タイ人はほとんど仏教徒だが文化の学習だと理解できるので特に嫌悪感はなく、体験しながら学べるのはよいという意見があった。
- ・ 写真を多く取り入れたり、おみくじやお守りのレアリアがあったりしていてわかりやすい。
- ・ 授業者の話すスピードは適切である。

○ 反省点

- ・ 年中行事の紹介は情報量が多く、また授業者にとって説明しにくいいため、生徒にとってはとて

も分かりにくいだろう。紹介する情報を分かりやすいものにする(例えば鳥居や狛犬など目に見えるもの)、動画を取り入れる、などの工夫が必要だろう。

- ・ 生徒への問いかけが少ないので、「どんな映画ですか。」「(鳥居などの写真を示して)知っていますか。」などと聞くのはどうか。生徒はタイ語で回答することも考えられるが、タイ人の先生に通訳してもらえば問題はないだろう。
- ・ 「(物を渡す際の)どうぞ。」「ありがとうございます。」等の言葉は既習の可能性はある。知っている言葉で日本から来た教師とやりとりをすることは、生徒にとって重要なことだろう。
- ・ お守りを作るとき、教師が主導になってすべての活動を行っている印象がある。生徒自身で行う作業をもう少し増やしてもよいだろう。
- ・ タイ人生徒にとって、日本のお寺と神社の違いが理解しにくいポイントである。神社について学ぶと、仏教徒であるタイ人ならその違いが気になる生徒が多いと思われるので、お寺と神社の違いに関する内容を取り入れてもよいだろう。中高生に向けての授業なので、少し難しい内容にも興味を持ってもらえるだろう。
- ・ 授業のまとめがなく急に終わったような感じだったので、何かまとめの活動を取り入れるべきだろう。
- ・ 生徒は 0 初級レベルだと仮定しても、聞き取れる日本語を織り交ぜてゆっくり話すのがよい。教師の発話のほとんどを通訳していただくなら、通訳していただく先生が聞き取れるスピード、生徒が直接聞き取れるスピードの 2 つを使い分けるのがよい。
- ・ タイ人の先生に通訳してもらうことを考慮し、教師の発話をわかりやすい日本語に整理する必要がある。
- ・ ローマ字表記に乱れがある。現地で使用されている表記にそろえるべきである(ヘボン式が主流である。)。また、アルファベットの大文字小文字の使い分け、長音の表記なども確認すべきである。
- ・ タイでは、月日は「日/月/年」のように表記する。授業中に使用していた PPT には「年/月/日」と書かれていたので、意味が伝わらないだろう。

III. 日本語の授業の見学について

■ コンケン大学附属中等学校モーディンデン校

○ 開講されている日本語の授業についての概要

今年度、日本語の授業を担当している先生は3人いらした。1人は常勤の教師(先述のベスト先生)で、2人はコンケン大学教育学部の実習生(先述のポリさん、パークワンさん)である。生徒の日本文化と日本語に対する興味や関心を育てることを教育目標として、授業が行われている。教育目標に合わせて、先述の教科書『こはるといっしょに』の中の日本文化と日本事情に関連するトピックを選択し、授業を実施している。昨年は文化を主要な授業内容として授業を行っていたが、今年は文化を重視するとともに文法と言葉の勉強も増やしているそうだ。文字表記については、中学生向けの授業ではローマ字がメインで平仮名と片仮名は導入されておらず、高校生の中には平仮名と片仮名を認識している生徒もいる、という状況である。

○ 見学の内容

実習中、日本語の授業は全部で11回見学させていただいた。

コンケン大学附属中等学校モーディンデン校の日本語教育は、基礎日本語と選択日本語の二つの種類がある。基礎日本語の授業は1コマ50分、選択日本語は1コマ100分(110分)である。基礎日本語の授業では言語知識が中心であり、選択日本語の授業では、前半50分は日本文化についての知識を中心に、後半50分はその知識を使った活動を中心に授業が行われていた。

授業は、タイ語で日本語の言葉の意味を生徒に説明し、PPTを使って写真や動画などを見せる形式で行われ、生徒たちが理解しやすいように工夫されていた。

私たちが見学させていただいた授業の具体的な内容と活動は以下である。

- ・ 色の言葉(中1)
教材・教具:ワークシート、色画用紙を床に貼ったもの(ツイスターゲームで使用)など。
活動:ツイスターゲームなど。
- ・ 文法「かばんになにがありますか?」(中1)
教材・教具:ワークシート、レアリア(財布や鍵など)など。
活動:かばんの中からランダムでレアリアを取り出して文を作るなど。
- ・ 数字の言葉(中2)
教材・教具:ワークシート、数字カード(アラビア数字表記、ローマ字表記)など。
活動:ビンゴ、かるたなど。
- ・ 日本の乗り物(中2)
教材・教具:色画用紙、はさみ、のりなど。
活動:新幹線のペーパークラフトを作るなど。
- ・ 自己紹介(高2)
教材・教具:ワークシート、動画、歌など。
活動:自己紹介の歌を作る、自己紹介の絵を描く、など。
- ・ 場所の言葉(高3)



写真1 ツイスターゲームの様子(中1)



写真2 新幹線のペーパークラフトを作成している様子(中2)

タイの先生方が使用していた教具やワークシートなどは全て、授業内容に合わせて先生方が教科書を参考にして作成されたそうである。例えば、使用した数字カードには二つの種類があった。一つは数字で表記されたもので、もう一つはローマ字で表記されたものだ。つまり、生徒が発音を聞いて数字を見て反応する力だけを訓練するのではなく、発音を聞いてローマ字表記を理解する力も訓練しているのである。その他にも、自作教材がたくさんあり、生徒が楽しみながら学べる工夫をいくつも学ばせていただいた。

先生方の教え方にも、様々な点で学ぶことがあった。例えば、生徒がゲームで盛り上がっている時に、先生方は生徒に負けない大きな声ではっきり発声し、授業の指示を伝えていた。特にベスト先生が、「チェツェツ」と舌を鳴らして生徒たちの注目を集め、集中力を向上させていたことがとても面白いと思った。また、単語を学習する時に、日本語の発音とタイ語の似ている発音を連想させて言葉を覚えさせることがあった。これらの技術が、タイの先生が皆知っていてよく使用しているものなのか、モーディンデン校の先生方だけが使い慣れたものなのかはわからないが、教員にはとても必要な技術だと思った。参考にさせていただきたい。

全体を通して感じたことは、どの授業も、先生方が沢山の工夫をされていることだ。日本語と日本文化に対する生徒の興味と関心を喚起するため、様々なゲームや活動を使って授業を進めていた。単調になりがちな語彙学習をゲームと結び付け、生徒の発音の上達、語彙に対する反応力、聴く力を全て訓練することができると思う。私たちも授業見学中に活動に参加させていただいた。数字や色に関する言葉の発音のお手伝いをして、生徒の学習に直接かかわった。最も印象強かったのは、生徒の活発な若い力であるが、先生方の工夫があつてこそ引き出されるものだった。

私たちの実習授業にもこのような「生徒の興味を引く方法」や「生徒に理解しやすいように教える方法」等々を参考にさせていただくことができ、非常にありがたかった。

■ コンケン大学教育学部

11月8日(金)に、コンケン大学教育学部日本語教育課程で開講されている高橋美紀先生の授業を見学させていただいた。用いられている教科書は『みんなの日本語 中級 I』である。

授業全体の流れとして、まず教科書に載っている文章を学生に読ませた。それから、文法と文章の内容を学生が理解できるか確認し、一つ一つの文法と理解しにくい文を学生に説明した。最後に、グループ検討で興味深い話題を学生に出し、学生自身に言語学習の際にあった失敗と感想をグループ内で発表させた。グループ検討を通して自分の経験を述べるという活動で、雰囲気盛り上がって学生の日本語会話の技能を促進したと感じた。

高橋先生は全般的に日本語を使用されていたが、授業中におっしゃった指示や日本語文法の教え方などは、学生にとって非常に分かりやすいと感じた。先生はご自身のタイ語学習経験を例として学生に伝えていた。外国語



写真 3 グループで話し合う様子

を勉強する困難点や恥ずかしかった話は学生の共感を得ていた。非常に良い方法だと思い、とても勉強になった。日本語の授業の中で、適切な日本語表現、学習者の興味関心を喚起するための活動、学習者と共感することなどを活用することは、私たちも重視するべきである。

授業が終わる前に、高橋先生は学生と、パソコンとスマートフォンのアプリで、授業に関する学習タスク、課題、資料などをやりとりしていた。それも非常に便利だと感じた。

IV. 授業実践について

■ 授業実践前の検討会

11月5日(火)8:30より、ベスト先生・ポリさん・パークワンさん・田中大輝先生・国際交流係の大西紀子さん・実習生2人で授業実践前の検討会を行った。まず、ベスト先生に、学内の特別授業で使用したPPT資料を少し改善したものを見ていただき、アドバイスをいただいた。また、11月4日(月)に学校に到着してすぐに、ポリさんとパークワンさんに対象クラスや既習項目等について少し教えていただいたため、それらの情報を再確認し、より詳細な情報を教えていただいた。以下には、検討会でベスト先生・ポリさん・パークワンさんにいただいたアドバイスを記す。

- ・ 神社に関する授業をリクエストしたのは、タイ人の日本語教師としては教えるににくい内容だからで、ぜひ日本から来た実習生にお願いしたい。しかし、年中行事は理解しにくいので、なくてよいかもしれない。それよりも、お寺と神社は同じだと思っている生徒が多いので、お寺と神社の違いについて扱うのはどうか。生徒にとって仏教は近い存在なので、お寺についての内容の方がより興味を持ちやすく、理解しやすいだろう。
- ・ おみくじは、タイのお寺にもあり、非常に形状が似ている。しかしおみくじを引く方法がタイと違う(タイのおみくじは穴を上にして少し筒を傾けて上下に振ると出てくるが、日本のおみくじは筒を振った後、穴を下に向けるため筒の上下をひっくり返す必要がある)ので、よく見せて教える必要がある。
- ・ 生徒はとても幼いとイメージした方がよい。説明が多いと飽きるので、生徒の興味を引くために動画をもっと増やした方がよいのではないかと。特に今回の授業には動作の説明を取り入れているので、実際の様子動画があればもっと理解しやすい。
- ・ 授業を実践するクラスは、選択科目の第2外国語のクラスである。必修でないため文型の定着を目的にしておらず、これまでは文化面を中心に教えてきた。日本語の文法等はあまり定着していないと思って授業を展開してほしい。
- ・ 定着に時間がかかるため、学校では平仮名を教えていない。平仮名もPPTで見せることはあるが、ほとんどの授業をローマ字表記のみで行っている。
- ・ 学年によって生徒の様子がかかなり違う。中学生はとても元気なので、授業を楽しんで受けるだろう。高校生はまじめな生徒が多い。中でも、高校1年生のクラスはたった4人だが、日本や日本の文化にとっても興味がある生徒で、日本語がよくできる。

■ 授業実践の概要

授業実践は、鈴木と楊の共同指導 2 回、楊指導 1 回、鈴木指導 1 回の計 4 回行った。4 回の授業実践は全て違う学年・クラスであったため、全ての授業を渡航前の構想を基にして行った。前半の 2 回は渡航前の特別授業を改善し、担当するパートを変えながら行った。後半の 2 回は、それまでの授業実践から大枠は変えずに、実習生 2 人が独自で工夫するようにした。(図1参照)

また、授業実践の後には、毎回その直後に授業の検討会を行うことができた。ベスト先生・ポリさん・パークワンさんに

は、お忙しい中、大変ありがたいことに 4 回とも参加していただくことができた。各授業実践について、以下の「改善した点」には、その時点までの授業実践を踏まえて授業者が工夫した点を、「よかった点」「反省点」には、授業後の検討会の参加者から出た意見を総合的に記す。



図 1 授業内容の発展

■ 授業実践①

実施日：11月6日(水) 10:20～12:00(100分、内10分休憩)

対象：コンケン大学附属中等学校モーディンデン校 7年生(中学1年生) 19名

授業者：鈴木優香・楊瑞

○ 学内での特別授業から改善した点

- ・ 授業の冒頭に、日本地図を使った活動を取り入れた。日本地図は、白地図に数字のみが書かれてあるものを採用した。まず、日本の知っている地名や行ったことのある地名を答えさせ、それが地図上の何番にあたるかというクイズをした。そして、鳴門教育大学周辺の写真を見せて、地図上の何番かというクイズをした。これらの活動は、自己紹介とアイスブレイキングのために取り入れた。
- ・ これまでの検討でいただいたアドバイスから授業内容を整理し、神社の年中行事の紹介をやめてお寺と神社の外観の違いを紹介した。しかし、お寺と神社の違いは日本人にとっても理解しにくい面があり、それを異文化として学ぶ子供にわかりやすく、かつタイ人の先生方にとっても通訳しやすいような日本語で授業を行うのは、大変難しいと思われた。そこで、①住職と神主の服装や持ち物の違い、②入口となる山門と鳥居の違い、③仁王像と狛犬の違いを取り上げて、目で見て違うと思えるように紹介することにした。



写真 4 日本地図を使ってクイズをする様子

- ・ 参拝方法の紹介の際、手水屋で手を清める動画を見せるようにした。この動画は、先述の授業前の検討会の後でポリさんとパークワンさんが探してくださったもので、手を清める一連の動作を見せるために授業に取り入れた。

○ 良かった点

- ・ 全体として、生徒は授業を楽しんでいた。
- ・ 日本地図を用いて生徒とのインターアクションを取り入れたことで、よいアイスブレイキングになった。
- ・ お守りを作って形に残るものがあるのがよい。生徒は喜んでいただけたようだ。

○ 反省点

- ・ お寺と神社の違いを紹介する際、タイのお寺、日本のお寺、日本の神社の違いをもっとはっきり伝える方がよい。多くのタイ人は日本にお寺と神社があることを知っているため、それぞれタイと比べて、また日本の両社がどう違うのかということに興味を持ちやすいと思う。また、鳥居や手水屋などの参拝方法を紹介する際には、なぜそのように参拝するのかという意味をはっきり教えた方がよい。
- ・ 神社の参拝の疑似体験をするとき、やってみたい人を募って 2 人程度にさせていた。仏教徒の生徒が嫌な思いをしないようにという配慮であったが、タイ人の先生方より、授業中のことであることを生徒は理解できているため、体験のために全員一緒にやってもよいだろうとのアドバイスをいただいた。
- ・ おみくじを引く活動の際、授業者 2 人で生徒の席を回るようにしたが、1人1人に対して時間をかけすぎた。生徒に丁寧に対応するのはいいが、その他の生徒は手持ち無沙汰になり、初めの方に引いた生徒が集中力を切らしてしまっていた。時間の効率が良く、クラス全体で活動できるような方法にする必要がある。例えば、授業者 1 人が生徒の席を回って番号を引かせ、もう1人の授業者は教室前方でおみくじを持っており、生徒が教室前方に自分で行って番号を言うことでおみくじをもらえるようにすると、効率も良いし教師と生徒のやりとりも生まれてよいのではないか。
- ・ お守りを作る手順が示されなかったため、生徒は作業の終わりが見えず混乱していた。PPT の日本語を出来るだけ少なくしようとしていたが、要点を示すことは必要である。
- ・ お守りを作り終わった人から授業が終わりになったので、授業の終りがぼやけてしまった。クラス全体で授業のまとめをするべきである。
- ・ 単語を導入する際、コールアンドレスポンス(教師の後について繰り返し学習者に発話させることにより、単語等の定着を図る教授法)を取り入れた方がよい。実習生は、その教授法についてこれまでの実習の報告書を読んで知っており、授業見学の際にも見せていただいたので、ぜひ取り入れたいと思っていたが、やり方が分からず戸惑っていた。また、生徒に「言ってください」等の日本語が通じないことで、上手くできないのではないかと不安があった。しかしタイ人の先生方より、タイの学校では取り入れることが多いので、日本語が分からなくてもジェスチャーがあればすぐに対応できるだろうというアドバイスをいただいた。
- ・ 教室の広さに対して、授業者 2 人の声が小さかった。初めて外国人生徒に対してクラス授業を行うことに 2 人とも大変緊張しており、声が小さくなってしまったようだ。タイ人の先生方の授

業をいくつも見学させていただいたが、みなさん普段の姿からは想像できないほどパワフルであった。参考にさせていただき、改善できるように十分注意して授業を行いたい。

■ 授業実践②

実施日:11月7日(木) 13:50~15:40(110分、内10分休憩)

対象:コンケン大学附属中等学校モーディンデン校 10年生(高校1年生) 4名

授業者:鈴木優香・楊瑞

○ これまでの授業から改善した点

- ・ 高校生は自己紹介について既習であることを伺い、また受講生が4人と少人数のクラスだったため、教師と生徒で「こんにちは。私は(名前)です。どうぞよろしく。」という簡単な自己紹介をするようにした。はじめ、「どうぞよろしく。」という挨拶は不自然に感じたが、使用テキストでの自己紹介の SCRIPT となっており、シンプルで分かりやすい文であったため採用した。
- ・ 前回の授業で鳴門を紹介した際、「なると」という音の響きで生徒らはアニメ「NARUTO」を連想して盛り上がっていた。そこで、あえてこちらから「鳴門」とアニメ「NARUTO」をつなげ、また生徒らが知っている日本のアニメを答えさせる活動を取り入れることで、生徒が授業に興味を持てるようにした。
- ・ 映画「千と千尋の神隠し」と映画「君の名は」を紹介する際、これまでは画像のみだったが動画を取り入れ、生徒がより興味を持てるようにした。
- ・ お寺と神社の違いについて紹介する際、前回紹介した山門、仁王像、狛犬については、生徒の反応が鈍く分かりにくいようだった。よりはっきり違うとわかるように、お寺の物として仏像と線香、神社の物として鳥居としめなわを紹介するように変更した。
- ・ お寺と神社の違いについて生徒が楽しみながら学べるよう、クイズ形式で紹介するようになった。例えば、「お寺と神社どちらが多いですか。」「(外観の違いを紹介した後で画像を見せて)これはお寺と神社どちらですか。」など。
- ・ 前回の授業検討会でのアドバイスを踏まえ、おみくじを引く際、生徒は自分の席でくじの番号を確認して、教室の前方でおみくじの紙を受け取るようにした。
- ・ 前回の授業検討会でのアドバイスを踏まえ、キーワードを紹介する際にコールアンドレスポンスを取り入れた。「言ってください」というキューの後、教師が発話しながら手で自分を指し示し、生徒を指し示す、というジェスチャーによって行った。また、PPT 資料でコールアンドレスポンスをする語句を一貫して同じ形式で示すことで、「このような形式で言葉が出てきたら繰り返して言うんだな」と生徒が分かるようにした。

○ 良かった点

- ・ 教師の日本語が整理されており、生徒にとっても見ている者にとっても分かりやすい発話となっていた。
- ・ コールアンドレスポンスを取り入れていたが、リピートのさせ方やジェスチャーは生徒にとってわかりやすかった。教師の声もメリハリがあって、「今からコールアンドレスポンスをするんだな」とわかりやすかった。
- ・ 生徒が4人と少なく、全員が教師の発話を聞きとっていたようだったので、ほとんど通訳なしで

授業を行えた。初級クラスを直接法で教える体験ができた。

- ・ 生徒の希望に沿って、漢字を書く活動をすることができた。

○ 反省点

- ・ 高校生は知識欲があるため、もっと詳細な意義や解説を伝えたほうがよい。今回は分かりやすさを重視したことと、教師が媒介語を使えないため日本語をわかりやすく整理しようとしすぎた。
- ・ 板書をする際、縦書きと横書きが混ざった。はじめ、お守りの表面に「おまもり」と生徒に書かせる際、教師の手本として縦書きで書いた。これは、生徒がこれから書く通りに行ったので問題はなかった。しかしその後、横書きで書いてしまったので、初めにそろえて縦書きに統一すべきだった。タイでは横書きであり、PPT 資料ではすべて横書きで示していたが、要所で縦書きを取り入れてもよいだろう。

■ 授業実践③ ※本授業の指導案を【付録1】として末尾に掲載。

実施日:11月11日(月) 13:50~15:40(110分、内10分休憩)

対象:コンケン大学附属中等学校モーディンデン校 8年生(中学2年生) 12名

授業者:楊瑞

○ これまでの授業から改善した点

- ・ 生徒が日本文化を理解しやすいように、また、興味と関心を喚起するために、動画やビデオを増やした。
- ・ 生徒の知識量と学習段階を配慮し、「色の言葉」を授業内容に導入した。
- ・ おみくじの引き方の説明は前回より理解しやすくなった。

○ 良かった点

- ・ コールアンドレスポンスをする際のキューをはっきりと発音したため、生徒が理解しやすくなり、教師の指示と生徒の言葉の発声がきちんと合った。
- ・ 髪形や服、使う道具に違いがあることを直接生徒に伝えるのではなく、生徒に気づかせるようにできた。

○ 反省点

- ・ 生徒に対するフィードバックが足りない。ちゃんと積極的にフィードバックを与えないと、生徒の授業に対する情熱が低くなってしまふ可能性があるため、注意しないといけない。
- ・ 教師としての立場から見ると、授業内容と流れはよくわかるが、生徒にとっては、授業内容と流れは全て新しい知識だと考えられる。教師として、そのポイントを注意しないと、どんどん授業の流れが速くなってしまふ可能性がある。教師は生徒の様子を見て、生徒が授業の内容と流れを理解しているかどうかを確認しながら、授業を進めるべきである。
- ・ 授業中に、一時、生徒が静かになって、授業者として少し混乱してしまった。教師は授業のリズムを把握しないといけないので、生徒の反応が鈍い時でも、冷静に確認質問や生徒の関心を引く質問をしないといけない。
- ・ 授業のリズムが少し速くなっている。もっとゆっくりと、スムーズに進めた方がいい。
- ・ 生徒とのコミュニケーションが足りないので、フィードバックをもっと増やした方がいい。

- ・ 色の言葉を勉強していた生徒と勉強していない生徒の両方がいるので、生徒の様子をもっと確認しながら、授業を進めた方がいい。

■ 授業実践④ ※本授業の指導案を【付録2】として末尾に掲載。

実施日:11月12日(火) 10:20~12:00(100分、内10分休憩)

対象:コンケン大学附属中等学校モーディンデン校 5年生(高校2年生)

授業者:鈴木優香

○ これまでの授業から改善した点

- ・ 11月5日(火)に対象クラスを見学させていただいたが、その授業の学習項目が自己紹介であった。また同じ授業で、本授業の授業者である鈴木が、授業の導入でモデルとして簡単な自己紹介をしていた。以上を踏まえ、本授業でも自己紹介のSCRIPTを導入し、お辞儀を含めて実際の場面に近い形式を見せて、生徒と教師で自己紹介のロールプレイをした。
- ・ お寺と神社に関するクイズをより整理し、シンプルにPPTを作成した。また、神社の境内を案内する動画を取り入れ、神主が大幣を振る様子等も見られるようにした。
- ・ これまでの授業検討を踏まえ、生徒全員が授業に参加できるよう、神社参拝の疑似体験をする際に生徒全員が教室前方に来て体験するようにした。
- ・ 対象が高校生であったため、おみくじやお守りについてより詳細な説明を付け加えた。例えば、おみくじを引いた後、大半の日本人は境内の木にくくりつけて帰ることや、お守りにはいろいろな種類があることなどを伝えた。
- ・ これまでの授業検討を踏まえ、授業の終わりに簡単な振り返りをする活動を取り入れた。



写真 5 お寺と神社のクイズをする様子

○ 良かった点

- ・ クイズが整理され、授業の流れが分かりやすかった。
- ・ タイで4回目の授業実践ということで、授業者がリラックスして授業を行うことができた。
- ・ 生徒のレベルに合わせた授業内容にすることができた。

○ 反省点

- ・ 声の大きさは改善されたが、トーンが一定だったのでもっと声のトーンや大きさにメリハリをつけたほうがよい。また、生徒の人数が多かったため、教室の隅の方へは目が届いていなかった。授業の後半には寝ている生徒もいたので、寝てしまった生徒には声をかけるなどした方がよかった。

V. コンケン大学附属初等学校スクサーサート校での実習について

11月8日(金)の午前に、コンケン大学附属初等学校スクサーサート校に伺った。先生方が私達を歓待してくださって、とてもありがたかった。私たちが理解しやすいよう、英語で紹介された学校についてのビデオを見せてくださり、通訳として英語系の先生も一緒に校内の案内をしてくださった。児童数が多く、敷地面積

も非常に広がった。たくさん教室がある中で、今回は、外国語学習に使用される大教室を見学した後、家庭科室で行われていた授業を見学し、その授業に参加させていただいた。

外国語学習に使用される教室は、非常に広い教室を二つの部分に分け、それぞれ違うクラスの授業を行うそうだ。教室の中には、野菜や果物のおもちゃと一緒に単語が飾られているなど、カラフルで楽しそうな教具がたくさんあった。授業科目となっている外国語は、英語、日本語、中国語の三つがあるという。児童は1年生から英語を勉強し始め、3年生から日本語と中国語も外国語授業として選択できるという教育方針である。外国語の勉強を始める段階は結構早いと感じた。

見学の翌日である11月9日(土)と11月10日(日)に、丁度ローイクラトン祭りという灯籠流しのお祭りがあったため、家庭科室で特別な授業が行われていた。私たちもそのローイクラトン祭りの授業に参加させていただき、児童と一緒に祭りの踊りを踊って文化の魅力を味わった。そして授業の後半には家庭科室から中庭のようなところに移動し、ローイクラトン祭り用の灯籠を作る活動をした。ごぞを敷いて屋外で授業をするのは初めてだったので、とても新鮮だった。児童が作ったものは一人一人全く違い、とても美しいと思った。児童のいきいきとしている顔と、私たちに英語で一生懸命話しかけてきた様子が忘れられない。



写真 6 ローイクラトン祭りの踊りを踊る様子



写真 7 実習生が作成した灯籠



写真 8 灯籠を作る児童



写真 9 屋外で授業が展開される様子

VI. その他

■ コンケン大学のキャンパスツアー

11月8日(金)にコンケン大学教育学部日本語教育課程の授業を見学した後、同課程4年生のワンさん、パーさん、ピンポンさん、プックさん、テイさん、プレーウさんがキャンパスを案内してくれた。

まず、大学内の自然歴史博物館に行った。自然科学や工学など、いろいろな分野にまたがって展示されていた。コンケンには恐竜が発掘されたことで有名だそうで、実物大の恐竜の模型もあった。

コンケン大学のキャンパスは一つの町に思えるほど大きく、キャンパス内には湖があった。次の日からローイクラトン祭りがあるということで、湖には噴水が設置され、その周辺には屋台や移動式遊園地が並んでいた。また、湖の周りで魚に餌をやる体験をした。湖のほとりで過ごすのは大生徒の定番らしく、大勢の人がそこで過ごしていた。

その後で、大学のグッズを売っているお店に行った。タイの大学は指定の制服があるのだが、それ以外にもロゴの入った T シャツや上着、かばんや帽子なども売っていた。そのほかにも、マグカップや万年筆などもあった。周辺には教科書や文房具だけでなく、服や ICT 機器類を売っている店も立ち並んでおり、中央には大きな食堂があった。この場所が大学の中心となっているセンターだと聞いた。

タイではナイトマーケットが有名だが、キャンパス内のナイトマーケットに連れて行ってもらった。夕食として、伝統的なタイ料理を食べた。寿司やたこ焼きなどの日本食も屋台で売られていた。

コンケン大学の広さと美しさ、そこに集まる人々の活気が印象的で、地域の中心としての存在感を感じた。

■ ローイクラトン祭りへの参加

実習期間の11月9日(土)と11月10日(日)に、ローイクラトン祭りという灯籠流しのお祭りがあった。私たちは、11月9日(土)に先述のコンケン大学の学生に連れて行っていただいた。

大学の中のお祭りだからか、学科ごとのパレードがあったり、芸術学科の学生によるダンスが披露されたり、ミスコンが行われたりしていた。この大学内でのお祭りは近年始まったものらしく、日本の大学祭と伝統的なお祭りが融合されているような感じであった。

お祭りのメインは、灯籠を湖に流すことである。私たちは前日にコンケン大学附属初等学校スクサーサー校で灯籠づくりを体験させていただいたので、各自が自身で作成した灯籠に火を付けて湖に流した。灯籠はパンの木やバナナの木を土台にして、バナナの葉っぱや色とりどりの花で飾り、真ん中に線香やろうそくを刺して作る。水に流すので、全てを自然の物で作ると聞いた。慣例に従い、自然への感謝と贖罪の意を込めてそれぞれが灯籠流しを体験した。私たちは灯籠を自ら作ったが、お祭りが行われているいろいろな場所で灯籠が売られており、現地の多くの人々は買ったものを流すそうだ。現地の伝統に従って灯籠を作って流すまでの体験が出来たことは、タイの文化を理解するという意味でとても大きな収穫であった。

VII. 感想・次回実習に臨まれる方へのアドバイス

■ 鈴木優香

コンケン大学での日本語教育実習は、毎日新しい気づきがあり、本当に多くのことを学んだ。その中でも、ここに特筆したいことが二つある。

まず一つは、海外で日本語を学ぶ学習者の様子についてだ。初等学校から大学まで、すべての校種で学習者の様子を見学することができたが、どの学年も授業に積極的であったのに驚いた。特に、日本では中等教育で生徒の授業への意欲が失われることが多いので、あまりの違いに驚いた。先生方の、日本語学習を楽しませる色々な工夫があってこそだと思う。また、授業中も先生方が生徒をよく見ており、ゲームに夢中になって興奮状態の生徒をコントロールする技術はとても勉強になった。それから、生徒はみんな自分の考えを表現することを楽しんでいる様子であった。授業後に感想を書いてもらったが、絵で表現したり、英語やタイ語を駆使したりして、なんとか私たちに伝えようとしている姿が印象的だった。習っていないはずの平仮名で、「ありがとう」「せんせいだいすき」などの言葉を書いてくれた生徒もいた。見学した授業でも、絵や身振り手振りで一生懸命表現しようとしていた。このような学習者たちの様子を見て、これから教育に関わる際に、学習者が考えを表現したくなるような授業をしたいと思った。

もう一つは自分が外国人の体験をしたことである。私はあまり英語が話せないが、学校の先生やホテルのスタッフの方、その他いろいろなどところで言葉が通じないもどかしさを感じた。特に、コンケン大学附属中等学校モーディンデン校の校長先生とお話する機会を設けていただいた時には、感謝の気持ちを伝えたいのにうまく伝えられず、日本語で通訳してもらったのがとても悔しかった。逆に、校長先生が日本語でスピーチしてくださったのが本当に嬉しかった。また、街中で不意に、日本語で話しかけられた時があった。まさかタイの街中で、日本語で話しかけられると思っていなかったのだから、私を日本人だとわかったうえで私に分かるように話しかけてくださったことがとても嬉しかった。その他にも、いろいろな場面で同じ言語を持つことの重要性を感じ、日本語教育を学ぶものとして、学習者がどんな気持ちで学んでいるのかをよく考えることができた。教育の場面でなくても、違う言語を持つものがお互いの言語に歩み寄って、相互に理解し合えるのだと感じた。日本語教師としても、そうでない場面でも、相手が話す言葉の真意を汲んで、心から理解し合えるようになりたいと強く思う。

次回実習に臨まれる方には、学習者を楽しませる授業をすることと、学校や先生方に合わせて実習を行うことをアドバイスしたい。タイの学校は日本の学校と制度も雰囲気も全く違うので、行って分かることがたくさんある。日本で準備万端にしないで、現地の雰囲気に合わせて柔軟に実習を行うことで、よい学びができると思う。また、私たちがお世話になったのは教育実習中の大学生であり、私たちの世話が負担であったことは間違いない。次回行かれる際にそのような状況が予測できるとしたら、私たちが用意した以上のお礼をすることをアドバイスしたい。

■ 楊瑞

私にとって、今回の実習授業は非常に貴重な経験であった。実習授業に参加させていただいて、本当に勉強になった。実習に行く前から、様々な問題があったが、コンケン大学の先生方は、お忙しい中でも丁寧に対応してくださった。コンケン大学附属中等学校モーディンデン校の校長先生と先生方も私たちに温かく歓待して下さって、本当に心からありがたいと思う。今回の実習授業に参加している生徒はコンケン大学附属中等学校モーディンデン校の生徒である。生徒たちは非常に勉強熱心で、日本文化や日本語に興味がある。生徒たちは授業中にとても積極的に私たちの実習授業のサポートをしてくださった。

そして、同行の田中先生、廣田先生と、国際交流係の大西紀子さんからも実習授業に関するアドバイスをたくさんいただいて、感謝でいっぱいである。先生方のおかげで、今回の実習授業を無事終える

ことができた。

実習授業に参加させていただいて、最も重要な収穫は自分の日本語教師としての立場を新たに認識したことである。生徒のわかりやすい理解のために、「教師はどのような活動をしたら良いか」と「より適切な日本語教師指示語は何か」という二つの問いを、今回の実習授業中に、私はずっと考えていた。私は日本では留学生なので、ずっと学生の立場・学生の目線から日本語を学習してきた。今回の研修活動で、学生ではなく、教師の立場から、日本語を使用し、日本語の授業をするということは、私にとって貴重な経験であった。そして、私は中国人だから、日本語学習者にとって漢字が非常に困難であるという認識は無かった。しかし、今回の実習授業で、日本語のローマ字、片仮名、平仮名と漢字の使い方は生徒の文化背景と学習段階によって調節の必要があるということがよくわかった。

それから、教師として、日本、タイ、中国の教育モデルについて考えながら、グローバル化の進展と異文化コミュニケーションに対して、新しい認識ができた。各国は自国の国情と合わせて教育を行っていて、それぞれに肯定的な点と否定的な点があると考えます。グローバル化の発展で相互に教育の肯定的な点を参考にすることができると極めて良いと考える。

【付録1 授業実践③ 指導案】

授業日:11月11日(月)4、5時間目(100分)		授業者:楊瑞		生徒数:24
学習項目:日本文化・事情の神社		学習目標:日本の神社と神社に関する伝統文化の魅力を認識する。		
時間	教材・教具	教師の活動	学習者の活動	注意点
15分	スライド 柄杓 おみくじ お守り 折り紙	<p><導入></p> <p>日本語で自己紹介をする。</p> <p>番号付きの日本地図を見せる。</p> <p>T:「日本に行ったことがありますか？」</p> <p>T:「どこに行きましたか？」</p> <p>T:「私は鳴門からきました。なるとを知っていますか？なるとはどこですか？1ですか？2ですか？」</p> <p>T:「なるとは36です。なるとです。」</p> <p>なるとと同じ発音のナルトというアニメの写真を見せる。</p> <p>T:「これはなんですか？これは日本のアニメです。」</p> <p>T:「他の日本のアニメを知っていますか？どんなアニメが好きですか？」</p> <p>千と千尋の神隠しのビデオを一部分ながす。(約1分40秒)</p> <p>T:「これはなんですか？千と千尋の神隠しです。皆さん知っていますか？」</p> <p>千と千尋の神隠しのビデオの中にある神様の写真を見せる</p> <p>T:「これはなんですか？これは神様です。」</p> <p>「神様」という言葉を生徒に言わせる。二回繰り返し、練習をする。</p>	<p>学習者の活動</p> <p>指導者の質問に答える。</p> <p>生徒は推測し、指導者の質問に答える。</p> <p>指導者の質問に答える。</p> <p>指導者の質問に答える。</p> <p>「神様」という言葉を繰り返す。</p>	<p>生徒の様子を確認しながら、ゆっくり言う。</p>

<p>23 分</p>	<p>T:「神様はどこにいますか？神様は神社にいます。」</p> <p>「神社」という言葉を生徒に言わせる。二回繰り返し、練習をする。</p> <p><本時の学習事項の確認></p> <p>T:「今日は日本の神社の話をします。神社です。日本は神社があります。タイはありますか？」</p> <p>日本の神社とお寺の区別を説明するため、先ず、コンケンの地元で有名なお寺とタイの有名なお寺の写真を見せる。</p> <p>T:「これはなんですか？コンケンのお寺です。タイのお寺です」</p> <p>日本のお寺の写真を見せる。</p> <p>T:「日本もお寺があります。これは日本のお寺です。」</p> <p>T:「日本はお寺があります。日本は神社もあります。神社とお寺はどちらが多いですか？神社が多いですか？お寺が多いですか？」</p> <p>T:「神社です」</p> <p>コンビニと神社の写真を見せる。</p> <p>T:「皆さん、コンビニを知っていますか？日本のコンビニはどこでもあります。日本のコンビニは 50,000 あります。日本の神社もどこでもあります。神社はいくつありますか？」</p> <p>T:「80,000 です。」</p> <p>T:「神社とお寺はどこが違いますか？」</p>	<p>「神社」という言葉を繰り返す。</p> <p>指導者の質問に答える。</p> <p>指導者の質問に答える。</p> <p>生徒は推測し、指導者の質問に答える。</p> <p>生徒が推測した結果を指導者に答える。</p> <p>指導者の質問に答える。</p>	
-------------	--	---	--

		<p>お寺と神社の区別をちょっと詳しく説明する。お坊さんとかんぬしの写真を見せながら、違いがあるところを探す。色の言葉の発声練習をする。</p> <p>T:「これはお寺の人ですか？神社の人ですか？この二人はどこが違いますか？」</p> <p>T:「頭が違います。」</p> <p>T:「服が違います。これは何色ですか？」</p> <p>T:「使っているものが違います。」</p> <p>お寺と神社の神職者の外観的な区別を伝える。髪形、服と使う道具を生徒に気づかせる。</p> <p>T:「これはなんですか？」</p> <p>T:「これはしめ縄です。神社にしめ縄があります。ここは神社です。」</p> <p>T:「言ってください」【しめ縄】を繰り返して発声練習をさせる。</p> <p>T:「これはなんですか？」</p> <p>T:「これは鳥居です。神社に鳥居があります。ここは神社です。」</p> <p>T:「言ってください」【鳥居】を繰り返して発声練習をさせる。</p> <p>T:「これはなんですか？」</p> <p>T:「これは仏像です。お寺に仏像があります。ここはお寺です。」</p> <p>T:「これはなんですか？」</p>	<p>指導者の質問に答える。</p> <p>指導者の質問に答える。</p> <p>「しめ縄」という言葉を繰り返す。</p> <p>「鳥居」という言葉を繰り返す。</p> <p>「仏像」という言葉を繰り返す。</p> <p>「線香」という言葉を繰り返す。</p>	<p>髪形、服と使う道具は違いがあることをちよくせつ生徒に伝えるのではなく、生徒に気づかせるようにした方がいい。</p> <p>色の言葉は前に学習してい</p>
--	--	---	--	--

12分		<p>T:「これは線香です。お寺に線香があります。ここはお寺です。」</p> <p>「君の名は」のビデオを一部分ながす。</p> <p>T:「これはなんですか？ここはなんですか？この映画を皆さん知っていますか？」</p> <p>T:「では、皆さん、お寺と神社にある色を見てみましょう。」</p> <p>色の写真を見せて、いろんな色の言葉を繰り返し発声練習させる。</p> <p>お寺と神社の写真を見せる。</p> <p>T:「これは神社ですか？お寺ですか？」</p> <p>質問しながら、生徒が神社とお寺の違いを理解できるかどうかの様子を確認しながら、仏像、線香、しめ縄と鳥居の色を言わせる。</p> <p>T:「これは神社ですか？お寺ですか？仏像は何色ですか？」</p> <p>T:「これは神社ですか？お寺ですか？線香は何色ですか？」</p> <p>T:「これは神社ですか？お寺ですか？しめ縄は何色ですか？」</p> <p>T:「これは神社ですか？お寺ですか？鳥居は何色ですか？」</p>	<p>指導者の質問に答える。</p> <p>色の言葉を繰り返し、発声練習する。</p> <p>指導者の質問に答える。</p> <p>指導者の質問に答える。</p> <p>指導者の質問に答える。</p> <p>指導者の質問に答える。</p> <p>指導者の質問に答える。</p>	<p>ない内容のため、生徒が理解できるかどうかを確認しながら授業を進めていく。</p>
20分		<p>T:「皆さんよく知っていますよね。私と一緒に神社に行きましょう。」</p> <p>鳥居の写真を見せます。</p> <p>T:「これはなんですか？」</p> <p>T:「これは神社の入り口です。ここから神社に入ります。言ってください」</p> <p>「鳥居」の言葉を繰り返し発声練習させる。</p>	<p>指導者の質問に答える。</p> <p>「鳥居」という言葉を繰り返す。</p>	

	<p>T:「これはなんですか？」</p> <p>T:「これは手水舎です。ここで手を洗います。手をキレイにします。言ってください」</p> <p>「手水舎」の言葉を繰り返し発声練習させる。</p> <p>手水舎で手を洗うビデオを流す。そして、柄杓の教具を使って、実演する。</p> <p>T:「したい人いますか？」</p> <p>賽銭箱の写真を見せる。</p> <p>T:「これはなんですか？」</p> <p>T:「これは賽銭箱です。神様にお願いをするとき 5 円玉を入れます。言ってください。」</p> <p>5 円玉の実物で実演する。</p> <p>「二礼二拍手一礼」の動作の写真を見せる。</p> <p>T:「これはなんですか？」</p> <p>T:「神様に御願いをしています。」</p> <p>「二礼二拍手一礼」を実演する。</p> <p>T:「したい人いませんか？」</p> <p>神社の写真ですを出し、生徒たちは「二礼二拍手一礼」を実演する。</p> <p>おみくじの写真を見せる。</p> <p>T:「これはなんですか？おみくじです。」</p> <p>本物のおみくじをみせる。作ったおみくじの教具を見せる。おみくじを引く方法を教える。吉、小吉、凶の写真を見せる。</p> <p>T:「おみくじは色々あります。吉はいいで</p>	<p>「手水舎」という言葉を繰り返す。</p> <p>生徒が前に出て、手水舎で手を洗うことを実演する。</p> <p>「賽銭箱」という言葉を繰り返す。</p> <p>生徒が前に出て、二礼二拍手一礼を実演する。</p> <p>生徒たちはおみくじを引く。</p>	
--	---	---	--

15分		<p>す。小吉は普通です。凶は悪いです。今日一緒におみくじをひきましょう。」</p> <p>T:「吉の人は誰ですか？小吉の人は誰ですか？凶の人は誰ですか？」</p> <p>T:「凶があっても大丈夫です。お守りがあります。私たちのことを守ります。悪いことがよくなります。」</p> <p>お守りの写真と本物を見せる。</p> <p>T:「一緒にお守りを作りましょう。」</p> <p>お守りの作り方を教えます。</p> <p>「願い」を書いてあるスライドを見せ、書かせる。</p> <p>T:「お守りの中に自分の願いを書いてください。タイ語でもいいです。」</p> <p>T:「コメントカードを書いてください。ありがとうございます」</p> <p>終</p>	<p>生徒たちは教えたことに沿ってお守りを作る。</p> <p>生徒たちは自分の願いをかく。</p> <p>生徒たちはコメントカードをかく。</p>	
15分				

【付録2 授業実践④ 指導案】

授業日時: 11月12日(火) 3・4時間目(10:20~12:00) 100分		授業者: 鈴木優香		
学習者: コンケン大学附属中等学校 モーディンデン校 5年生(高校2年生に該当) 23名				
参考教科書: 「こはるといっしょに」		学習項目		
学習目標		<ul style="list-style-type: none"> 「はじめまして。わたしは(名前)です。どうぞよろしく。」 神社に関する語彙: 「かみさま」「じんじゃ」「とりい」「しめなわ」「ちょうずや」「ほんでん」「さいせんばこ」「おみくじ」「おまもり」 お寺に関する語彙: 「おてら」「ぶつぞう」「せんこう」 		
<ul style="list-style-type: none"> 初めて会った日本人と自己紹介をし合う。 神社とお寺に関する語彙や知識を理解する。 折り紙でお守りを作成し、日本の文化に親しむ。 				
時間	教材・教具	指導者の活動	生徒の活動	留意点
5分	スライド 指示棒 名札(指導者用)	<p>導入①自己紹介(前時復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導者(以下 T)が自己紹介をする。 「はじめまして。私は鈴木です。どうぞよろしく。(お辞儀をする)」 スライドで文型を示しながら繰り返す。 「はじめまして。私は鈴木(言いながら名札を見せた後、Sを指す。)です。どうぞよろしく。」 Sに自己紹介させる。 「みなさん、自分の名前で言ってください。」「せーの、の後に言ってください。せーの。」「はじめまして。私は鈴木です。どうぞよろしく。」 TとSでロールプレイをする。 「立ってください。」 「はじめまして。私は鈴木です。どうぞよろしく。(お辞儀をする)」「せーの。」 「座ってください。」 日本地図を見せ、来日経験や行ったことのある場所について質問する。 「私は日本から来ました。私は日本人です。」 	<ul style="list-style-type: none"> Tの自己紹介を聞き、既習項目(11月5日3・4限、授業者:パークワンさん)を確認する。 自己紹介のスク립トを、スライドで見確認する。また、名前を入れ替えて自己紹介することを理解する。 S全員で声をそろえて自己紹介する。 「はじめまして。私は(Sの名前)です。どうぞよろしく。」 TとSでロールプレイをする。Tに続いて、S全員で声をそろえて自己紹介する。 「はじめまして。私は(Sの名前)です。どうぞよろしく。(お辞儀をする)」 日本地図を見て、日本への関心を高める。 来日経験のあるSは、行ったことが 	<ul style="list-style-type: none"> T(鈴木)の自己紹介は、前回の授業で聞かせている。復習のためリアリティを持たせて言う。 生徒(以下 S)が確実に理解できるよう、ジェスチャーを交えてゆっくり言う。 「どうぞよろしく」は「私は(名前)です。」の文を全員が言い終わってから言う。 お辞儀を含めて自己紹介のロールプレイとなるようにする。 「～たことがありますか。」「どこに行きましたか。」の文型は未習の可能性があるので、ゆっくり言う、言
5分	番号のみが書かれている日本の白地図			

		<p>「日本に行ったことがありますか。行きましたか。どこに行きましたか。」</p> <p>「__はどこですか。1ですか。2ですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳴門の写真を見せる。 「私は鳴門から来ました。」 「言ってください。」「なると」×2(以下では一連の流れをC&Rとする。) 日本地図を見せ、鳴門がどこにあるか質問する。 「鳴門はどこですか。1ですか。2ですか。」 「私は、徳島県鳴門市から来ました。」 	<p>ある地名を答える。</p> <p>「東京」「大阪」「京都」「沖縄」</p> <ul style="list-style-type: none"> 回答された地名は地図上のどこにあたるか、数字で答える。 T の後に続いて「なると」と発声する。 鳴門は地図上のどこにあたるか、数字で答える。 	<p>い換えるなどしてSが理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本地図で示されているのは鳴門という地名でなく、徳島県であることを伝えるようにする。
5分	アニメ「NARUTO」の画像	<p>導入②</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳴門とアニメ「NARUTO」をつなげて日本のアニメを紹介し、授業への興味を引き出す。 「(写真を示して)NARUTOです。知っていますか。日本のアニメです。」「日本のアニメは好きですか。何のアニメが好きですか。」 映画「千と千尋の神隠し」の動画を見せ、質問をする。 「見たことがありますか。見ましたか。」「このアニメの名前は何ですか。」「(神様のキャラクターを示して)「これは何ですか」 ビデオに出てきたキャラクターを神様だと伝え、【かみさま】という単語を導入する。 「(キャラクターを見せて)ビデオにありました。これは何ですか。」「これは神様です。」 C&R「かみさま」 神様はどこにいるかを推測させ、【じ 	<ul style="list-style-type: none"> 見たことのある日本のアニメを想起し、授業に関心を持つ。 「ONE PIECE」「名探偵コナン」「ドラえもん」など ビデオを見て、アニメの題名を答える。 「千と千尋の神隠し」 キャラクターが何かを答える。 「妖怪」「お化け」「神様」など ビデオに出てきたキャラクターを神様だと理解し、日本の神様をイメージする。 T の後に続いて「かみさま」と発声する。 T の質問に答える。 	<ul style="list-style-type: none"> 他クラスの授業の様子から、キャラクターを妖怪やお化けと答えるSが多いようである。 他クラスの授業
5分	映画「千と千尋の神隠し」の動画(神様が油屋に入っていくシーン)、画像			
	神社の画像			

		<p>んじゃ】という単語を導入する。</p> <p>「神様はどこにいますか。」「(神社の写真を見せて)神社にいます。」</p> <p>C&R「じんじゃ」</p> <p>「日本の神様は神社にいます。」</p>	<p>「空」「天」</p> <ul style="list-style-type: none"> • T の後に続いて「じんじゃ」と発声する。 	<p>の様子から、神様は天上や空にいと答えるSが多いようである。</p>
1分	タイの寺院の画像	<p>展開①</p> <ul style="list-style-type: none"> • タイのお寺の写真を見せ、【おてら】という単語を導入する。 「タイには何がありますか。」 「お寺ですね。」(コンケンのお寺、バンコクのお寺の写真を見せる。) 「タイのお寺です。」 C&R「おてら」 	<ul style="list-style-type: none"> • タイのお寺の写真を見て、タイ語と結びつけることにより「おてら」という単語の意味を理解する。 • T の後に続いて「おてら」と発声する。 	<ul style="list-style-type: none"> • タイ語でお寺は「ワット」である。
9分	日本の寺院の画像	<ul style="list-style-type: none"> • 日本のお寺の写真を見せ、違いを感じさせる。 「日本にもお寺があります。タイのお寺と少し違います。」 C&R「おてら」 	<ul style="list-style-type: none"> • 日本のお寺の写真を見て、タイと日本のお寺の違いを感じる。 • T の後に続いて「おてら」と発声する。 	
5分	クイズ①: お寺と神社の違いに関するクイズ お坊さん、神主さんの画像 仏像、線香	<ul style="list-style-type: none"> • クイズ①を通して、日本のお寺と神社の違いを認識させる。 「日本には、お寺と神社、2 つあります。」 C&R「おてら」 C&R「じんじゃ」 「お寺と神社、何が違いますか。」 「クイズをしましょう。」 「1 番。お寺と神社、どっちが多いですか。」 「2 番。神社はいくつありますか。日本のコンビニはとても多いです。日本のコンビニは 50,000 あります。神社はいくつありますか?」 「3 番。神社はどっちですか。神社とお寺にいる人です。神社にいる人はどっちですか。」「何が違いますか。」 • お寺に関して、【ぶつぞう】【せんこ 	<ul style="list-style-type: none"> • T の後に続いて「おてら」「じんじゃ」と発声する。 • T の質問に答える。 • クイズに答える。 A1: じんじゃ A2: 80,000 A3: 頭(剃髪、烏帽子)・服装(黒、白)・道具(木魚・たたく、大幣・振る)が違う。 	<ul style="list-style-type: none"> • ここで、「おてら」は 3 回目、「じんじゃ」は 2 回目の C&R である。定着を確かめながら C&R を行う。 • Q2 で意見を板書する。 • 道具の説明で、指示棒を振るなどして見せる。

5分	<p>の画像</p> <p>神社を紹介する動画</p> <p>鳥居、しめ縄の画像</p> <p>映画「君の名は」の神社で三葉と四葉が舞うシーンの動画</p> <p>お寺と神社の画像</p>	<p>う】という語を導入し説明する。</p> <p>「日本のお寺は、タイのお寺と似ています。同じです。お寺に何かありますか。</p> <p>C&R「ぶつぞう」</p> <p>C&R「せんこう」</p> <ul style="list-style-type: none"> • 神社に関して、動画を見せて【とりい】【しめなわ】という語を導入し、説明する。 <p>「神社に行ったことがありますか。行きましたか。ビデオを見てください。何かありますか。(神社の動画を流す。)」</p> <p>C&R「とりい」</p> <p>C&R「しめなわ」</p> <ul style="list-style-type: none"> • クイズ②を通して、日本のお寺と神社についての理解度を確かめる。 <p>「お寺、神社、わかりましたか？」</p> <p>「(「君の名は」の動画を流して)見たことがありますか。名前はなんですか。」</p> <p>「もう一度クイズです。4番。これ(動画の舞台を指して)は、お寺、神社、どっちですか？」</p> <p>「5番。(写真を見せて)お寺、神社、どっちですか？」7番まで同様のクイズをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Tの後に続いて「ぶつぞう」「せんこう」と発声する。 • Tの後に続いて「とりい」「しめなわ」と発声する。 • Tの質問に答える。 「君の名は」 • A4:神社 • A5:お寺 • A6:お寺 • A7:神社 	<ul style="list-style-type: none"> • 導入した単語を使って判断できるようにする。
7分	<p>鳥居の画像</p> <p>手水屋の画</p>	<p>展開②</p> <p>「みなさん、タイのお寺に行ったことがありますね。日本のお寺も同じです。」</p> <p>「神社に行ったことがありますか。」</p> <p>「では、一緒に神社に行きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> • 【とりい】という語を確認し説明する。 <p>C&R「とりい」</p> <p>「ここから入ります。神様の世界と人間の世界を分けます。」</p> <ul style="list-style-type: none"> • 【ちょうずや】という語を導入し説明 	<ul style="list-style-type: none"> • Tの質問に答える。 「ないです。」 • Tの後に続いて「とりい」と発声する。 	<ul style="list-style-type: none"> • タイ語に通訳してもらうので、簡単な言葉と動作で説明する。

13分	<p>像</p> <p>ひしゃく</p> <p>本殿の画像</p> <p>賽銭箱の画像</p> <p>五円玉 缶の箱</p> <p>おみくじの筒 引き出し</p> <p>おみくじの紙 (吉・小吉・凶)</p>	<p>する。</p> <p>C&R「ちょうずや」 「手を洗います。神様の世界なので、きれいにします。」</p> <ul style="list-style-type: none"> • 手水屋での作法に関する動画を見せ、ひしゃくを用いて手を清める作法を見せる。Sと一緒に言う。 「一緒にしましょう。(2人くらい)」 • 【ほんでん】という語を導入し説明する。 C&R「ほんでん」 「ここに神様がいます。ここに賽銭箱があります。」 • 【さいせんばこ】という語を挿入し、実演して説明する。 C&R「さいせんばこ」 「ここにお金をいれます。」 アルミの箱にお金を入れる。 • 二礼二拍手一礼について説明し、クラス全員で実演する。 「そして、神様にお願いをします。見てください。」(順番を指文字で見せながら、二礼二拍手をして見せる。) 「本殿に来ました。」(静かにさせた後、賽銭をして二礼二拍手をするまでの一連の流れを見せる。) 「みなさん、前に来てください。」(Sを全員前に来させて、1人に5円玉を渡し、賽銭を体験させる。) 「せーの。」(全員で二礼二拍手一礼をする。) • 【おみくじ】という語を導入して説明し、Sにおみくじを体験させる。 C&R「おみくじ」 「(レアリアを見せながら)おみくじを引いて、数字を見ます。同じ数字の紙を一つ取ります。」 「紙を見てください。吉ですか、小吉 	<ul style="list-style-type: none"> • Tの後に続いて「ちょうずや」と発声する。 • 希望者が前に出て、Tと一緒に手を清める真似をする。 • Tの後に続いて「ほんでん」と発声する。 • Tの後に続いて「さいせんばこ」と発声する。 • 希望者1人が、賽銭をする真似をする。 • S全員で二礼二拍手一礼をして、参拝をする真似をする。 • Tの後に続いて「おみくじ」と発声する。 • 筒を振って番号を引き、引き出しからおみくじを取る体験をする。 • 自分がどの運勢だったか手を挙げ 	<ul style="list-style-type: none"> • Sは恥ずかしがる人が多いそうなので、近づいて誘うようにする。 • 小銭の音が聞こえるようにする。 • Tは実演をし、TAは順番を指し示す。 • 一連の流れを見せる前Sを静かにさせ、本当に参拝するかのように見せる。 • Tは机間を回って番号を引かせ、TAは引き出しから紙を引かせる。 • T自らが手を挙
-----	--	--	---	---

	おまもりの画像	<p>ですか、凶ですか。」</p> <p>「凶の人、悪いですね。どうしましょうか。神社に紐があります。くくってもいいです。持って帰ってもいいです。」</p> <ul style="list-style-type: none"> • 【おまもり】という語を導入し、説明する。 <p>「それから、お守りを買います。」</p> <p>C&R「おまもり」</p> <p>「いろいろなお守りがあります。」「べんきょう、れんあい、あんぜん、などです。」</p>	<p>て知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • T の後に続いて「おまもり」と発声する。 	<p>げることでSの反応を促す。</p>
30分	折り紙(半分のサイズ) リリアンの紐 厚紙 シール 穴あけパンチ	<p>展開③</p> <ul style="list-style-type: none"> • 折り紙でお守りを作る。 <p>「今日は、おまもりを作りましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> • 折り紙と紐を配付する。 • 教師用の特大折り紙で折り方を演示する。 • 中に入れる厚紙を配付し、願い事を書かせる。 • シールに「おまもり」と書いて貼らせる。 • 厚紙を中に入れたら穴あけパンチで穴を一つ開け、紐を通して結ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> • 折り紙と紐を選ぶ。 <p>「赤、青、緑、黄色、紫、ピンク」</p> <ul style="list-style-type: none"> • 折り紙でお守りを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> • T とのやりとりで簡単な日本語を言わせるようにする。 • 全体の出来具合を見ながら作業を進めるようにする。
15分		<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本時学習した単語を復習する。 <p>「今日は何を勉強しましたか。」</p> <p>「日本の神社にぜひ行ってください。」「授業を終わります。ありがとうございました。」</p> <ul style="list-style-type: none"> • 感想を書かせる。 <p>「感想を書いてください。タイ語でもいいです。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 今日学んだ単語を言う。 <p>「おてら、じんじゃ、おまもり・・・」</p> <ul style="list-style-type: none"> • 授業の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> • 導入した単語を復習して本時のまとめとする。